

ECR2014(European Congress of Radiology : 3/6-3/10開催)に参加しました.



3/4夕方に島根を出発,羽田空港からフランスのパリ(シャルルドゴール空港)を
経由して,オーストリアのウィーンに到着です.

飛行機のための所要時間は16時間程度ですが,乗り継ぎ/待ち時間/列車移動時
間などを入れると片道約27時間の長旅でした.



特急S-Bahnと地下鉄U-Bahnを乗り継いでホテルに到着しました。
時差は日本マイナス8時間であり,ウィーン到着時には昼過ぎでした。



ECR開催日にはU-Bahnに乗り、会場のあるKaisermuhlen Vienna Int.Centreに向かいました。
会場の近くにはIAEA本部があります。



初日・2日目はかなり混雑していました.IVRのセッションや教育講演を中心に受講しました.

IVRのセッションではブタを用いた実験(CTガイド下に腎動脈周囲神経叢をRFAし,RAA系を遮断することにより内服治療不応の高血圧を治療する)やMR-guided Focused Ultrasound Surgery(MRg-FUS)のセッションが印象的で,新たな知識や概念が勉強できました.



教育講演ではCTガイド下肺生検のコツと合併症についての講演などに参加しました。今回の画像系の講演は基本的な内容に最新のTIPSを交えたものや教育講演が充実していた印象です。

また、一緒に参加された福庭先生はEPOS演題で「certificate of merit」を受賞されました。

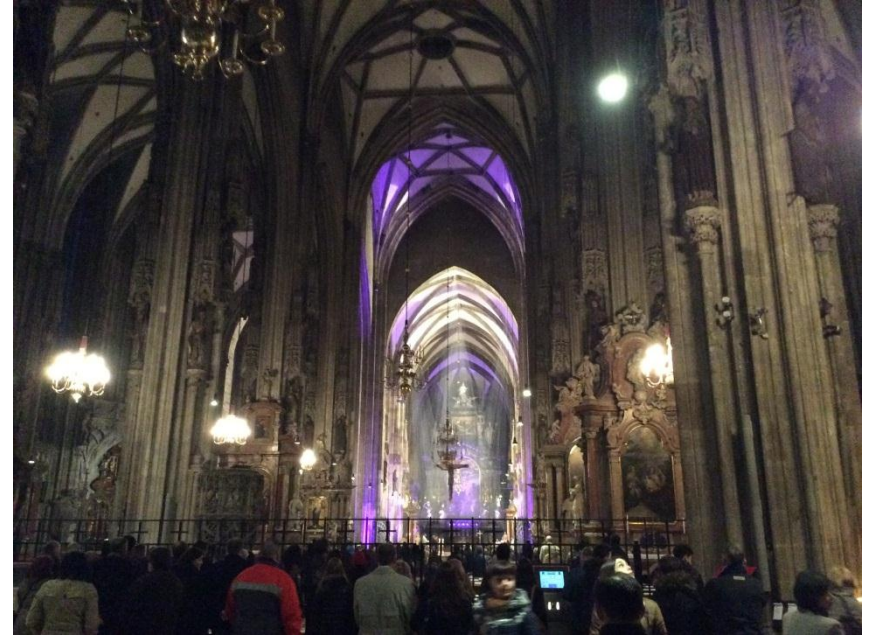


夕食は地元のウィーン料理を堪能しました。

ヴェーナーシュニッツェル(豚肉のカツレツ)は一人前のものでもお皿からはみ出るサイズでびっくりです。

ターフェルシュピッツ(牛肉の煮込み料理)はコンソメスープで煮込んだ牛すじのような味でした。

その他、色々なウィーン料理を食べましたが、どれも日本人の口に合うものでおいしかったです。



ウィーンの街並みは夜でも美しかったです。
また、日曜日の夜にはシュテファン寺院の内部にも立ち入り、ミサの見学をしました。



Volksooperにてオペラ「Turandot」を観賞,国立図書館や温泉街Barden, オーストリア著名人が埋葬される共同墓地など観光で訪れました。

今回のECR参加は公私ともにとっても勉強となりました。